

インドネシア国
マングローブ林資源保全開発
現地実証調査フォローアップ
計画打合せ(評価)調査団報告書

平成11年7月

国際協力事業団

序 文

国際協力事業団は、インドネシア国実施機関（林業農園省）との討議議事録（R / D）に基づき、「インドネシア国マングローブ林資源保全開発現地実証調査」を平成4年12月から5か年実施しました。さらに平成9年12月から2か年のフォローアップを行い、現在は実証調査期間終了まで3か月を残すに至っています。

本実証調査は、企業による持続的なマングローブ林経営を支援するための施業技術の確立を目的として実施されています。

本実証調査の最終年にあたり、当事業団は、これまでの実績及び成果について評価するとともに、関係者及び派遣専門家に対し、取りまとめについて必要な助言及び指導を行うため、平成11年6月30日から7月10日まで、農林水産省林野庁指導部計画課監査官 宮川秀樹氏を団長とする計画打合せ（評価）調査団を派遣しました。

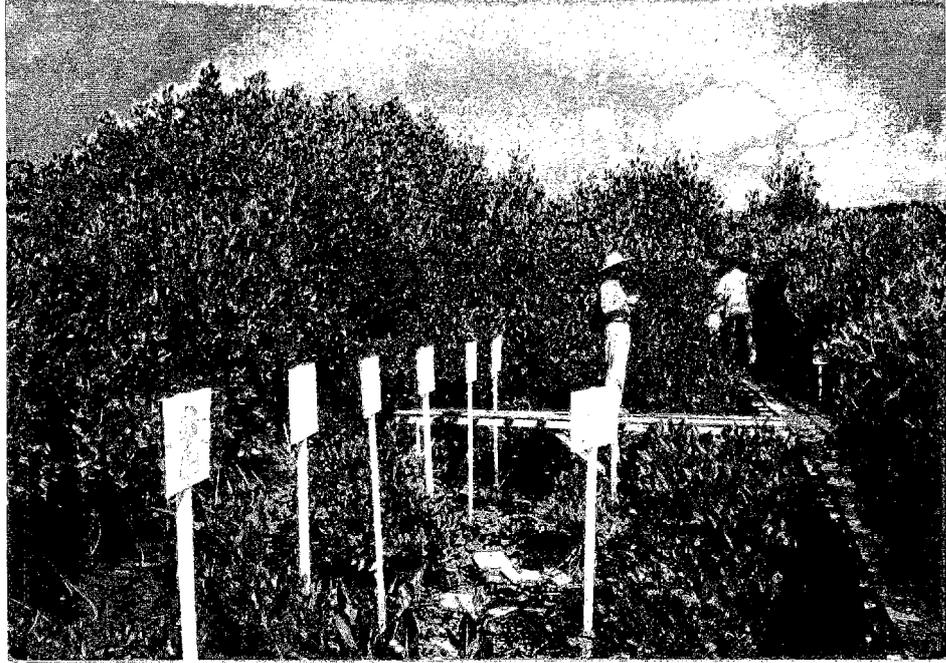
本報告書は、その調査結果について取りまとめたものであり、今後広く関係者に活用されることを願うものです。

終わりに、この調査に御協力と御支援を頂いた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

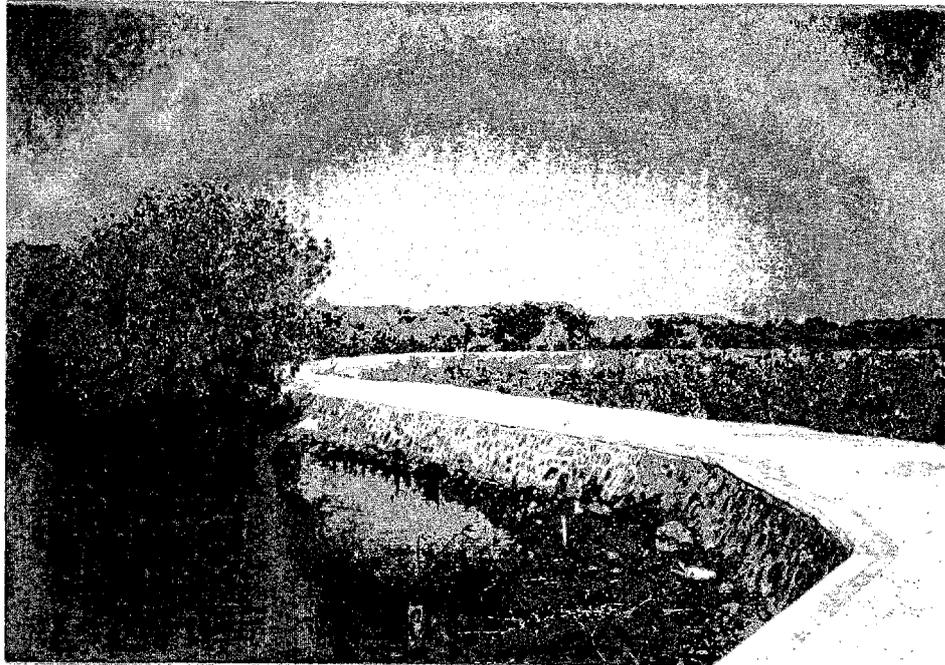
平成11年7月

国際協力事業団

理事 亀若 誠



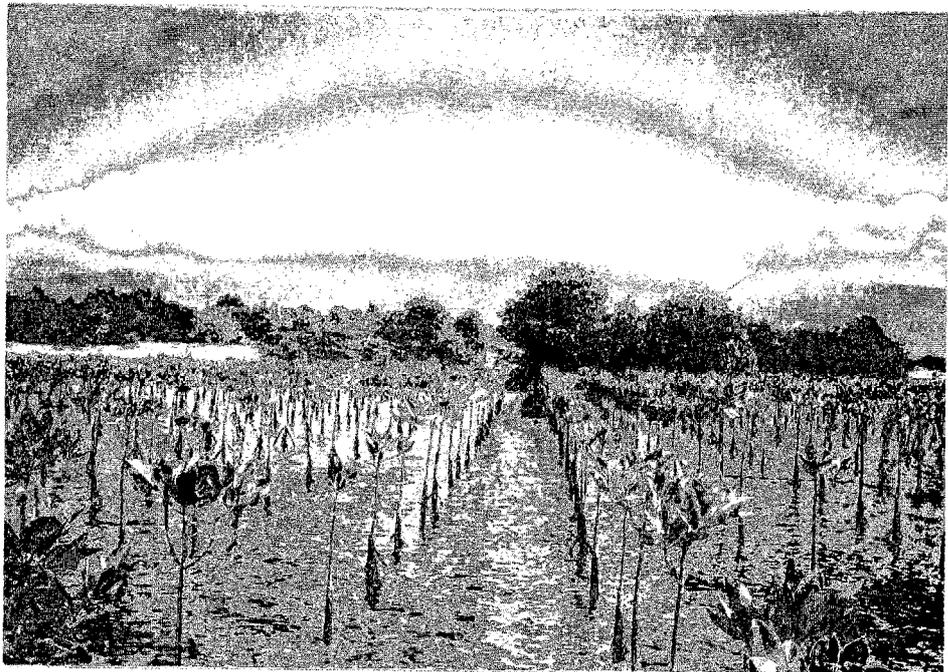
バリサイト テラス植栽



バリサイト 補修された材道



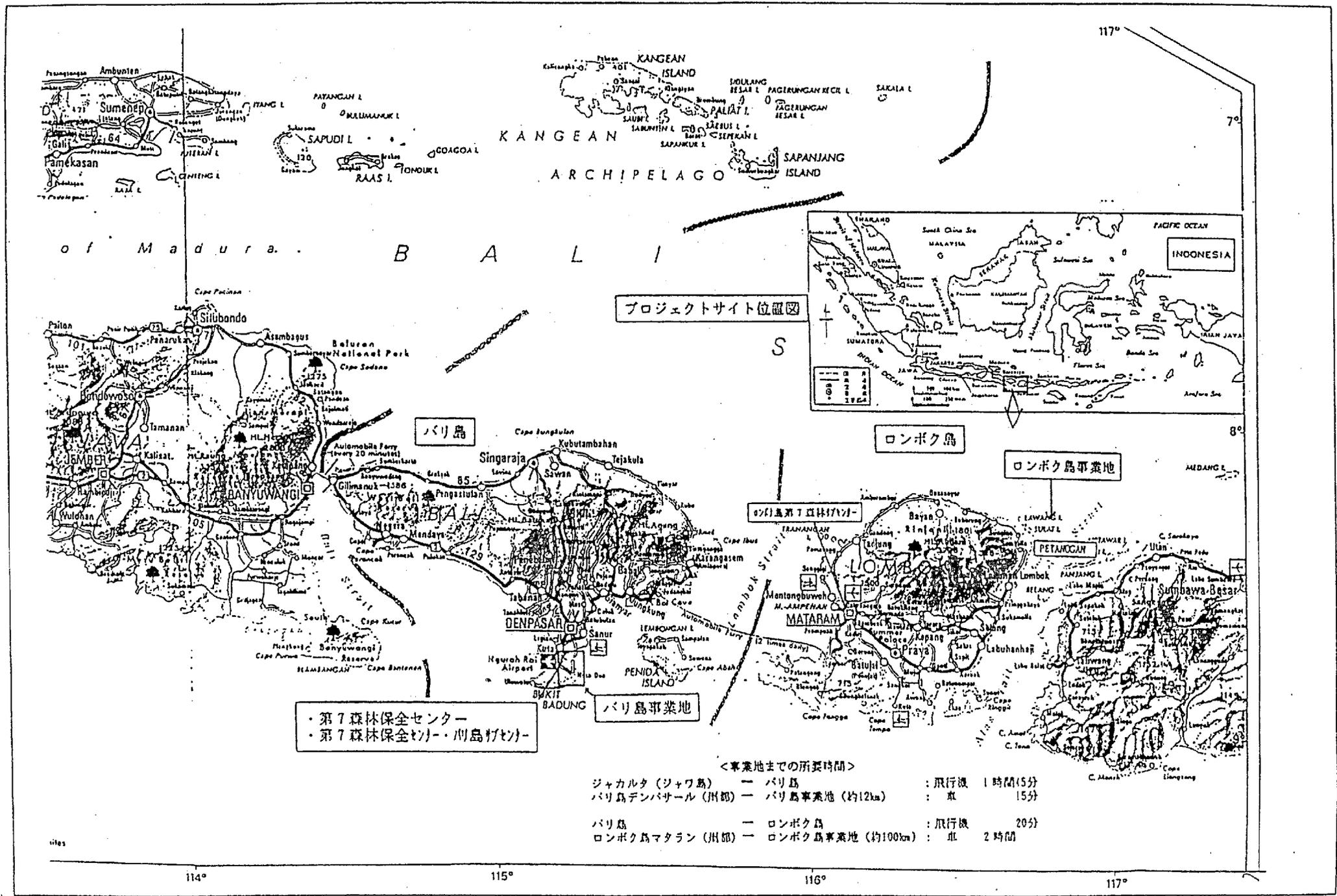
ロンボクサイト 1994年植栽



ロンボクサイト 1997年植栽



ミニッツ署名



114°

115°

116°

117°

目 次

序文

写真

プロジェクト位置図

第1章 調査の目的と概要	1
1 - 1 調査の目的	1
1 - 2 調査団の構成	1
1 - 3 調査の日程	2
1 - 4 面談者一覧	3
第2章 調査結果要約	4
2 - 1 活動の進捗状況	4
2 - 1 - 1 フォローアップ期間中の課題	4
2 - 1 - 2 造林マニュアル及び経営モデルの策定	4
2 - 2 第7回合同委員会の開催	4
2 - 2 - 1 調査団（団長）のコメント	5
2 - 2 - 2 インドネシア側の問題意識	5
2 - 3 今後の展望	6
2 - 3 - 1 最終セミナーの開催	6
2 - 3 - 2 本実証調査終了後のインドネシア側による取り組み	6
2 - 3 - 3 今後の日本側の方策	6
2 - 3 - 4 インドネシア国に対する今後の協力について	6
第3章 プロジェクトの運営状況及び実施体制整備状況	7
3 - 1 事業実施体制	7
3 - 2 専門家派遣・研修員受入	7
3 - 3 カウンターパートの配置・ローカルコスト負担	7
3 - 4 国内支援活動	7

第4章 試験調査活動の現状	14
4 - 1 造林技術開発	14
4 - 1 - 1 植栽密度試験	14
4 - 1 - 2 生存率試験	14
4 - 1 - 3 カイガラムシ等の病虫害防除	15
4 - 1 - 4 造林マニュアル	15
4 - 2 造林技術開発	16
4 - 2 - 1 マングローブ林経営モデルの検討	16
4 - 2 - 2 マングローブ林経営にかかわる要素の分析	19
 第5章 今後の展望	 25
5 - 1 本実証調査の成果の普及	25
5 - 2 投資の可能性	25
5 - 3 その他	26
 資料	
資料1 . 林業農園省組織図	29
資料2 . ミニッツ	30
資料3 . 第7回合同委員会ミニッツ	41